

## 1 第2回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について

項目	意見内容
教育・学校づくりの視点等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップをとることができて、総合的に回りの人たちを活気づけることができる人を育ててほしい。</li> <li>・何のために新しい学校をつくるのかという目標を明確にさせることが大事である。ひとつには、地域に貢献できる人間をつくる、二つ目には地域だけでなく日本全体に貢献できる魅力ある生徒をつくる、といったことが大事だと思う。</li> <li>・就職してもすぐやめてしまう傾向が見られるが、3年くらい持ちこたえたと何とか一人前にできるようになることから、辛抱強さを教える必要がある。</li> <li>・地域振興をどう行っていくかが課題であり、子どもたちが継続的に定着する地域社会の育成を考えていかなければならない。</li> <li>・2つの母体になる農業と商業の学科の方針がきちんと決まれば、その2つをステップアップするような新しい学科の案ができるかと思う。</li> <li>・社会貢献や日本経済を立て直すために、新しい学校の目的をしっかりと決めてから、学科ができるのではないかと思う。</li> </ul>
農業・商業教育の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういうものをつくれれば売れるのかということを学ぶことができるとよい。例えば野菜とそれに見合った調理方法を結びつけて考えるという訓練をすることにより、地域に根ざした農業と商業の連携がかたちづくられると思う。</li> <li>・「命の教育」である農業と流通あるいはマーケティングの専門である商業高校とのコラボレーションが6次産業化の新たな視点につながっていく。</li> <li>・学科数が多くなり生徒数が増えることにより、将来の選択の幅が広がり、多様な教育につながる。</li> <li>・専門性を高めて、商業のマーケティングや流通に関する様々なノウハウを取り入れてやっていくことが、農業教育の将来につながる。</li> <li>・グローバル化に関して、単なる英語力だけではない、例えば海外の農業事情等多様な情報を踏まえて取り組んでいけるような生徒を育成していきたい。</li> <li>・新しい学校においては、さらに高度な資格を目指せる強い専門高校を目指さなければならないと思っている。</li> <li>・インターネットを利用したビジネスができる知識や力をもった人材、商品開発やマーケティングの力をもった人材の育成が必要になるとともに、海外を視野にいれた語学力や情報、デザイン等も勉強できる学校を目指していく必要がある。</li> <li>・大学や企業との連携が必要となってくる。</li> <li>・6次産業化や地域振興においては、農業や商業の中で商品開発をしたものにどのような形で付加価値を付けていくかという視点が必要である。</li> <li>・デザイン力やインターネットを活用した販売戦略が必要なのかと思う。モノをつくるノウハウがない商業系では商品開発する力、農業系では販売する力があるといいと思う。</li> </ul>

項目	意見内容
新しい学科について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブランド」や「デザイン」などは情報系の学科でもできる範囲である。また、近年の「IOT」の観点からは工業系の情報技術の要素も入ってくる。</li> <li>・農業と商業の両方に関係する学科ということを考えると、「商品開発」や「インターネットビジネス」があり、「情報デザイン系の学科」と「外国語系の学科、国際ビジネス学科」の2つを考えている。</li> <li>・多くの人材が他県へ流出している状態の中で、この地域が持続的に人間社会を形成し、地域社会が発展できるような学科を希望する。</li> <li>・売れるものをつくり、販売戦略を活用できる地域の担い手となる生徒を育成できるような学科を希望する。</li> <li>・ブランド力を付けることができ、美術系、語学ができて、さらにインターネットができて、良い商品を作りどのような戦略で売っていくのかをふくらませていけるような学科ができればよい。</li> <li>・本当に地域を活性化させるような学校づくりをしていければよい。</li> <li>・柴田農林高校及び大河原商業高校の伝統とそれぞれの分野での強みを活かす学科を希望する。例えば、専門的に深く学びたいという子ども、あるいは生産から販売まで広く学びたいという子どもたちの要望に応えるような学科があるとよい。</li> <li>・6次産業的な学科であるとか子どもたちが自分の進路に合わせて選択できるような総合的な学科があれば、中学校としては子どもたちの将来を見据えてアドバイスができる。</li> <li>・バイオテクノロジー等の技術を使って柴田農林高校でなければできないような一流の品質を生むとともに、しっかりと情報発信や販売方法を研究できる学科が必要になる。</li> <li>・「(地域) ブランド学科」がよい。6次産業の知識やものをつくる技術、デザイン、商品開発や販売のためのIT戦略等、学科の中にいろいろな科目を設定できる。</li> <li>・例えば観光をやりたくて語学を強化したいという場合には、語学を中心に勉強できるように、単位制の学校にした上で、生徒の個々のニーズに合わせて対応できるような学科設定を希望する。</li> <li>・資格取得に力を入れている大河原商業高校とバイオ技術を含めた新しい農業関係の技術を伝える柴田農林高校がいつしよになったときに、大きな力が発揮できる学科がよい。</li> <li>・総合学科制をとる村田高校が近くにあり、そこの差別化をどう考えていくかが大切である。</li> <li>・高校に入ってから、進路を考える生徒もたくさんいることから、可能性を広げられる学科がよい。</li> <li>・技術は日進月歩であることから、IT関係も含め新しい技術、情報をどんどん吸収して自分のものにしていけるような力をつけていくことのできる学校、学科の設定を希望する。</li> <li>・子どもたちがコミュニケーション能力をつけ、情報共有をしながら、地域または世界に広げられるような情報力のある人間を育てられるような学科がよいと思う。</li> </ul>